

こぶし通信

Vol. **57**
2023.8

社会福祉法人こぶしの会

〒630-8424 奈良市古市町529-4
電話 0742-63-6765 FAX 0742-63-6766
e-mail/kokkara@kokkara.jp <http://kokkara.jp/>
発行責任者/坂下 伸一

Column

温故知新 ～こぶしの会の20年とこれから～

社会福祉法人こぶしの会 理事長 坂下伸一

温故知新

「温故知新」という四字熟語はみなさんご存知でしょう。「論語」という本からとったものです。言うまでもなく「論語」は中国の儒教の祖である孔子が弟子たちに話し聞かせた言葉を集めたものです。「温故知新」は、「論語・為政篇」に「^{ふる}故きを温^{たず}ねて新しきを知らば、以て師と為るべし」とあるところから引いたものです。

この言葉は、「過去の出来事や理論にしっかり学ぶことで、新しい知見や解釈を導きだせる。そして、そのことを自分の師、道しるべとすること」という意味だそうです（諸説あり）。何かを始めたり、物事に行き詰ったりした時に、やみくもに新しいことにのみを追い求めたり、前へ進んだりするだけでなく、過去のことを深く学び直すことによって、より一層見えてくるものがあるのだと指摘しているでしょう。

20周年記念行事

3月26日の日曜日に、社会福祉法人こぶしの会設立20周年記念行事を行いました。申し訳なかったのですが、コロナ禍ということで、仲間・家族・職員のみ集まりとしました。

記念行事では、仲間や職員からはもちろん、藤井前理事長、藤森後援会長、高橋家族会会長など、こぶしの会に尽力して下さったみなさんに挨拶をしてもらいました。そこには、20年間の懐かしい思い出とこのこぶしの会への願いや期待がたくさん語られました。

（なお、当日、参加できなかったみなさんには、この通信の多くが20周年記念行事の記事となっていますので、読んでいただければと思います。）

これからのこぶしの会

20周年記念行事を終えて、私自身が改めて考えていかなければならないと思ったことがあります。それは、

1. わたしたちは、障害のある人々が主人公という立場を大切にします。
2. わたしたちは、なかまひとり一人が豊かな人生を築いてゆける施設づくりに務めます。
3. わたしたちは、いつも明るい未来をめざして事業と運動に創造的にとりくみます。

4. わたしたちは、なかま、職員、市民、行政の共同のもとに事業の民主的な運営をはかります。
5. わたしたちは、ここに生まれてよかったとだれもが思える地域づくりをすすめます。

という設立当初から確認してきた「こぶしの会の理念」についてです。今や当たり前で、古臭く映っているかもしれないですが、20周年を過ぎた今こそ、再度この5点を深め直し、これからの指針にしなければならないと…。

平和を脅かすような動き、コロナ禍、そして障害者福祉の制度的課題等々、障害のある人たちにとって厳しい状況の下で、こぶしの会が、なかまの生活を支えるために、これからどのように進んでいくのか。こぶしの会やそこに関わる私たち一人ひとりが「温故知新」という姿勢で、設立当初の理念に立ち戻り、新たな未来を築いていく必要があると強く思っています。



坂下伸一理事長



藤井正紀顧問



藤森善正後援会会長

不安や葛藤に寄り添って

「すまいる」に入居されているKさんは、“安心して気兼ねなく過ごせるところ”にしていくためグループホームと日中活動とでいろいろな工夫や仲間の支え合いの中で、長年過ごしているご家庭への想いや、初めてのなかまや、スタッフの中に入っていき不安などと向き合っておられます。

そんな中でも、ご家族や事業所スタッフとともに、暮らしに必要なもの、自分の好きなものを少しずつそろえていったりしながら、たくさんのお思いと折り合いをつけて日々精一杯に過ごしておられます。

Kさんは日中はすたあとに通所されていますが、すたあとの仲間にとってもKさんのチャレンジはまさに「わがことまるごと」。

Kさんが、パズルの達人であることにすまいる職員が気づきました。そこで、完成したパズルをすたあとに持って行き皆に完成を報告し、飾ってもらいました。それを見た仲間が「一緒にパズル探してみようか？」と提案し、Kさんの楽しみを一緒に作るために仲間全員でイオンに行きジグソーパズルを選んでくれました。

Kさんの色々な気持ちの中に、「みんなと一緒に選んだパズルを、すまいるで完成させみんなにみてもらおう！」という気持ちが1つ増えたようで、そういった出来事がKさんのすまいるでの暮らしを少しずつ豊かにしてくれているように感じます。 (文責：藤井浩司)



遊休農地解消活動モデルほ場での収穫作業にご招待いただきました。

奈良市農業委員会さんが奈良市を5区画に分割し、遊休農地解消活動のモデルほ場にて野菜を育てる活動に取り組まれています。今年度は東市が取り組み対象となり、モデルほ場の地主様より同地区で活発に活動している『こっから』を玉ねぎの収穫作業にお誘いをしたいと奈良市農業委員会さんへ推薦くださり、収穫作業へご招待いただきました。

当日は、思い思いに玉ねぎを引っこ抜いて大量に収穫する仲間たち。中には、引っこ抜いた勢いで玉ねぎを空中へ飛ばす人も。普段、散歩やら畑作業に興味なくクールに過ごしている仲間も目の前にある玉ねぎをどんどん収穫し、袋へ大量に詰め込み両手で抱え畑を後にしていました。いただいた玉ねぎは仲間・職員・グループホーム等で分けました。地域の身近な施設として『こっから』をと思ってくださった事で実現した大変うれしい素敵な時間でした。皆様あたたかいきもちありがとうございました。 (文責：梅田玲輔)



マイナ保険証をめぐる、現場の声から。

「通院時、マイナ保険証の顔認証でエラーになってしまおう（緊張すると不随運動で顔ぶれしてしまう）」「暗証番号のボタンがうまく押せない。ヘルパーに番号を教えて押しもらった。大丈夫か」マイナ保険証をめぐる、困りごとを聞くことが増えました。

他にも顔写真の背後に車いすのヘッドレストが写ることなどでカードの申請を却下されたり、全盲で黒目を摘出していた人は写真が撮れない…など日常的に医療がかかせない障害者なのに一方で制度からはじかれていく例もきいています。人手不足にあえぐ福祉現場では、重要な個人情報管理の責任を負わせられ、別途費用を徴収して高度な情報管理を行わざるを得ない…といった話も。

現行の健康保険証をなぜ来秋に廃止するのか。国民の74%が延期・廃止を求め（JNN世論調査7月）、地方自

治体からも意見書が上げられているマイナカード。国会閉会中の審議の中では、世論に押され、高齢者等対象に暗証番号不要のマイナカードを11月から発行するとか、保険証代わりの「資格確認書」を申請無しでも発行することなどが出されているようです。が、そもそもカードをなくしたり、忘れたり、情報が漏れた時にどうするのか、リスクコントロールができていない制度は信頼ができません。宮崎県では2336人分の療育手帳が誤登録され、『マイナポータル』で障害の程度や手帳番号といった他人情報が閲覧できる状態になっていました。担当課職員が一人で作業していたとのこと。巨額を投じて強力にすすめられた裏には、事業の発注先（NTTコミュニケーションズや富士通、日立製作所、NECなど）との癒着や、膨大な国民データの利活用を求める財界の意向すら感じます。障害という究極のプライバシーがどう守られるのか、本当に私たちにとって実のある制度になっていくのか、声を上げていくことが必要です。

帯解駅の清掃をはじめました

ここすたNEWS

4月より、新しい仕事として帯解駅の清掃に取り組み始めました。

待合室の掃き掃除、窓ふきを（月）はすたあと、（金）はここにというように、一つの仕事を二つの事業所で分かち合っており取り組んでいます。

帯解駅は1898年（明治31年）に作られ、昨年に有形文化財に登録された、風情のある重厚な趣の駅舎です。

六角形の床のタイルの溝にたまった砂をかきだすのに悪戦苦闘したり、壁に貼ってある路線図に見とれたり。

最近、利用客から「ありがとう」「暑いのにご苦労様」とお声掛けいただけることもあり、仲間も、電車から降りてくる人、一人一人に「こんにちは」とあいさつする場面も見られるようになりました。

来年、駅舎は大正時代の面影を再現する工事をします。それまでの一年間、歴史を感じながら大切に守っていきたいと思います。（文責：島耕治）



Topix



藤井顧問
年末一本締め

12月



奈良マラソン観戦

1月



山焼き&
インドカレー



般若寺に初詣



書き初め大会

2月



豆まき

ここすた旅行で
おやつタウンへ

3月



お花見

4月



タケノコ掘り



お花見

5月

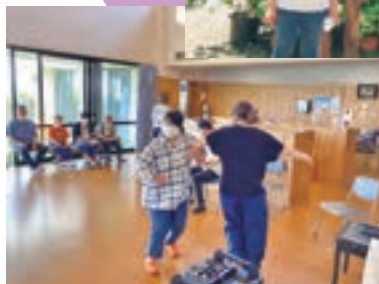


穏やかな季節のクリコミ活動

6月



岩船寺のアジサイ



開所日カラオケ舞



川上村温泉へ



あおによしで
プチ旅行

祝 こぶしの会 20周年

3月26日に20周年のつどいが
開かれました



こぶし20周年を振り返って

こぶしの会は2023年20周年を迎えました。
2002年の間所武は約31名の仲間が集まって行なわれました。
とてもきんちゅうしました。私は20年の間に3ヶ所施設を変りました。
ここからはヤレンジハイワへ行きました。しんとかたけど無事山のぼりが
出来てよかたです。またあとに移るからは封入作業やポストングをしました。
2011年9月には難国へ2泊3日で旅行へ行、たのしい思い出になっています。
チヌチゴリという民族衣装を着ました。
そして、2011年6月からは現在のここにて仕事をしています。
いろんな所へ旅行に行きました。大阪へ行いた時は屋敷船に乗ってカニ料理
をおなかいっぱいになるまで食べました。
その他白川線は一泊で行ってとても寒いけど氷のライトアップをしている
所へ行いた事が思い出です。その他信楽へ行いた時はしゃしんの格好をして
アナウンスをした事です。そして今年3月の下旬に20周年の集いがありました。
久しぶりにみんながこぶりに集まり20周年をお祝いました。
私は、総務のあいさつを担当する事になりこれまでの思い出をめぐらせ
あいさつをしましたとても緊張しました。これから何年続ける事が分か
りませんがいい思い出がたくさん出来ればいいと思います。

松田 嘉次



20周年のつどい準備と当日運営までのお話



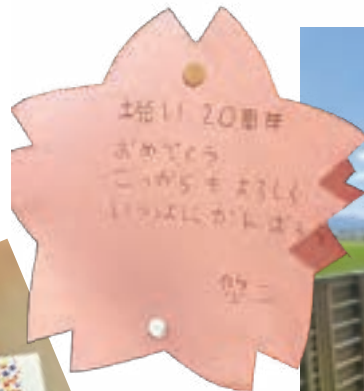
法人の20周年を祝う会の担当者会議が本格的に始まったのは、年明けの1月です。コロナ禍ということもあり、最少人数で感染対策をしながらということで、話を進めていきました。

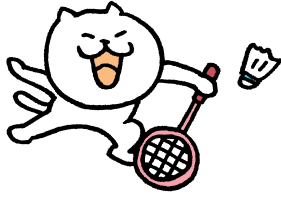
“こじんまりと…”といったものの、「記念パーカーを作ろう」「皆さんに持って帰ってもらえるオリジナル記念品を作ろう」「なかまメッセージを壁一面に」などアイデアがたくさん出てきました。

はじめて「こっから」と「ここすた（ここに・すたあと）」の合同仲間自治会の話し合いも持たれました。

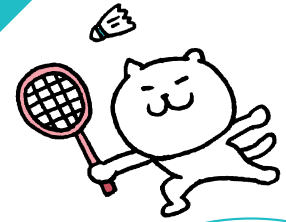
20周年を祝う会で、「大切にしたいこと」として仲間が全面にでるような会にしようと理事長からの提案があり、パネル展示、当日の受付、オープニングのピアノ演奏などの企画が出来上がりました。

短い時間でしたので、もっともっと20年の思い出話をしたかった方もたくさんいらっしゃったかと思います。次は25周年を祝う会で、お世話になっている方をたくさんお迎えし、お祝いしましょう。（文責：杉原郁美）





サークル活動 スポーツ班



みんなで
話し合い

こっからサークル活動は、2023年度の大きな取組みとして始めました。

みんなで楽しいことをしたい、お出かけしたいという思いを、こっから全体（なかまも職員もみんな）で取り組むことにしました。

まずは5月に第1回目のこっから全体会議です。全員がなかまの部屋に集まります。施設長の「サークル活動、復活します！」宣言から始まり、なかまがやりたいことを一人ひとり出し合って、班分けを行いました。

グループは、①ドライブ②グルメ③スポーツ④なんでも⑤工作⑥音楽です。今回は、スポーツ班の企画を紹介いたします。（文責：川野美幸）



活動紹介
作成



レッツ
スポーツ!



スポーツ班は、外でバドミントンやフリスビーをしたり、雨や気温が高い時には、室内で出来る運動やゲームを仲間と一緒に作りながら遊ぶなど日々色々なことをしています。

つい先日、こっからの近くの体育館を借りてスポーツをしよう、ということで仲間と一緒に体育館を借りに行く手続きをしたり、やりたいスポーツを挙げてもらい、プログラムを作成するなど、その日を楽しみに準備をされていました。

当日は蒸し暑い日でしたが、他のサークル班と合同で、玉入れやバスケットやバドミントンを流していました。普段あまり関わりが少ない別のサークル班の仲間同士でバドミントンをしていた姿が個人的に印象に残りました。

サークル活動が仲間の新しいきっかけになるよう楽しい工夫をしていきたいです。

（文責：楠本剛志）

ありがとうございました！
寄贈

♥カーブス様より

フードドライブ活動として多くの食料品をご寄贈くださいました。法人内3か所のグループホームやこっから・ここにや奈良市内の障害者居宅支援事業（市内数カ所グループホーム等）へ分配し大切に活用しました。



♥公益財団法人 日本財団様より

公益財団法人 日本財団様の8人乗り送迎車両配備の助成事業により、3月30日に納車、贈呈いただきました。10年ぶりの新車は先進装備で盛りで時代の進み具合に只々驚くばかり。久方ぶりの新車はやっぱり嬉しくみんなが笑顔に。

これから輝く新車で仲間の仕事と暮らしを日々紡いでまいります。



♥毎月11日に取り組まれている『幸せの黄色いレシートキャンペーン』

イオンリテール株式会社 イオンスタイル奈良（奈良ファミリー店）様より社会福祉法人こぶしの会へご寄贈くださいました。

イオンビック株式会社 ザ・ビックエクストラ大安寺店様よりコミュニティワークこっからへご寄贈くださいました。

どちらも日常生活用品や医薬部外品等、仲間の生活を支える大切な備品の購入に充当させていただきました。

毎月一回の「ここすた仲間自治会」

仲間自治会 NEWS

「開所日にどんなことをするか、どんなところに行きたいか」を話し合ったり、仕事のこと、給料のことなどについて考えたりしています。

4月には、お花見をしながら青空仲間自治会を開きました。

5月には、「ここすた」で取り組む仕事の意味について考えました。

- ①「たのしい仕事」（調理、収穫：たけのこ、しいたけ、仕入れ）
- ②「むずかしい仕事」（計算）
- ③「やりがいのある仕事」（ここに市）
- ④「おもいやりのある仕事」⇒「だれかのためになる仕事」（ゴミに拾い、帯解駅、マンション清掃）
- ⑤「集中してする仕事」（選別、計量、精米、フェルト）
- ⑥「団結力のある仕事」⇒「協力してする仕事」（新聞、竹林整備、清掃、ここに市）
- ⑦「人の心を動かす仕事」（ブラックボード、ホワイトボード、ディスプレイ）
- ⑧「人にうたえる仕事」（ここに市新聞、配信）
- ⑨「仲間のための仕事」（売り上げ表づくり）
- ⑩「未来につながる仕事」（竹林整備）

など、仲間自身、どのような思いをもって仕事に取り組

んでいるのが良くわかる時間となりました。今年度も、給料、ボーナス、さらに期末手当も出せるように仲間と知恵を出し合い、励まし合いながらがんばっていきたいと思います。



第46次国会請願署名・募金のお礼



昨年10月より取り組み始めた国会請願署名・募金は、街頭署名も再開し、4年ぶりに東京の国会議員会館に直接署名束を議員に渡しに行くことができました。

きょうされん奈良支部では、署名3,704筆、募金170,202円を集めることができました。

そのうち、こぶしの会は、2,337筆、141,902円のご協力を得ました。県内でこぶしの会が広くつながりを持ち、訴える力を持っているかの表れだと心強く感じます。

紹介議員には、堀井巖、馬淵澄夫、田野瀬天道、奥野信亮、小林茂樹、前川清成議員がなっけくださり、過去最多となりました。ご協力ありがとうございました。

表・紙・解・説

■表紙作者プロフィール

タイトル：虹

作者：寺坂早苗さん

こっからの寺坂早苗さんの最新作「虹」です。

6月に描きました。

「木」と「家」と「虹」の3部作のうちの1つです。



社会福祉法人こぶしの会では、事業拡大に伴い私たちと一緒に働いてくれる、**正規職員(生活支援員) 非正規職員(生活支援員・グループホーム職員・送迎スタッフ)**を募集しています。

■生活支援員(正規職員)

支援内容	障害のある人たちの仕事や生活のサポート（食品製造・配達、文化活動、健康維持、身辺自立等） 送迎、法人内事業所間の異動有
勤務時間	8時45分～17時30分（配属班によっては早出有り）
給与・手当	183,270円～191,265円（調整手当含む） 賞与2カ月／年 通勤手当、住宅手当、家族手当、処遇改善手当、その他職務手当
社会保険等	健康保険、厚生年金保険、雇用保険、労災保険
必要資格等	普通自動車免許（必須）、基本的なPC操作（エクセル、ワード）

※非正規職員も募集しています。1,010円(経験者1,060円)

■グループホーム支援員(非正規職員)

支援内容	グループホームでの生活全般（食事、入浴、整容等）の介助や見守り
勤務時間	16時～翌10時までの宿泊をともなう勤務 ※またはこの時間内で3～5時間で宿泊をともなわない勤務についても応相談
給与・手当	1,010円（経験者1,060円） 夜勤手当、通勤手当、業務手当 ※契約時間によって社会保険適用
必要資格	不問

求人は随時おこなっています。未経験の方も安心して働けるようサポートします。詳細・お問い合わせにつきましては、こっから／梅田(0742-63-6765)又は法人本部／藤井(0742-63-6504)までご連絡ください。

編集後記

2020年1月に国内で初めての感染者が確認された新型コロナウイルス。わずか数カ月の間に世界中で爆発的に流行し、結果これまでの暮らしのあり様や価値観は大きく変わることとなりました。

日本では、2023年の5月に感染症上で危険度の高い2類相当から季節性インフルエンザと同じ5類に引き下げられ、ようやく一定の収束を見ることとなりました（正確には社会福祉施設の現場では現在でもクラスターと言われる集団感染の対応に追われるなど第9波の感染拡大状況であり、こぶしの会でも引き続きの防止対策を続けているのが現実ですが、ニュースで取り上げられることはほぼ無く、奈良市も一切公表していません）。この3年が長かったのか、あつという間だったのか。この通信でも、コロナ禍の中で様々な行動制限を強いられながら笑顔を絶やさない仲間の姿をお伝えしてきましたが、ご家族のご協力や職員の日々の頑張り、そして何より仲間の姿に励まされながら皆で乗り越えてきたんだと改めて感

じます。そこで「afterコロナ」のこぶしの会はどうなっていくのか…。

この3年間は、より安全に、より人と接しないようにを最優先としてきました。それは、毎日施設の外へ飛び出し多くの人たちと出会いながらつながりを広げてきた私たちとは真逆の姿でした。今年度に入り職員会議や家族会、後援会の活動再開について集まり話し合いを重ねながら、「こぶしの会」らしさとは何なのかを見つめ直しています。3年前と同じようには出来ないこともあるかもしれませんが、それでも、より人が大切にされる方向で、より人との繋がりが広がっていく方向で、そして仲間の人生がより豊かになっていく方向で、「できることをやろう」とそれぞれが動き出します。また皆様のところへ仲間たちが会いに行くかもしれません。新しい取り組みへのご協力をお願いすることもあるかと思えます。小さな規模からでもまたみんなが集まれるイベントを開催したいです。そんな時にはよろしくお願ひいたします。現在こぶしの会では仲間の暮らしを支えてくださる方を募集しています。経験の有無は問いません（福祉職の未経験の方も多くおられます）のでお問合せをお待ちしています。

（文責：古木 一夫）

こちらも
ご覧下さい

<http://kokkara.jp/> ・ネットショップ ・活動ブログ
・ニュースブログもお楽しみ下さい。



こっから facebook